

子ども音楽新聞

CHILDREN'S MUSIC NEWSPAPER

2022年1月 第29刊



オーケストラ大解剖!

オーケストラにはどんな楽器があるの?
それぞれどんな役割なの?... そんな疑問について徹底解説!
これを読めばきみもオーケストラ博士になれるかも!?



監修・執筆：飯尾洋一（音楽ライター）



オーケストラってどんな楽器がある?どんな編成なの?

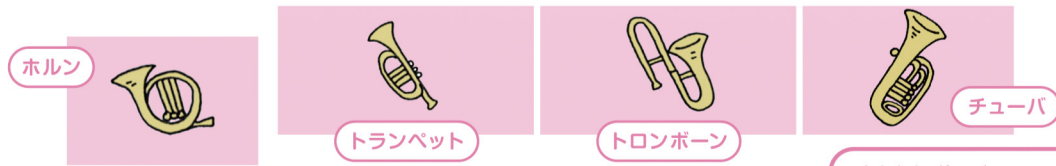
オーケストラとは、たくさんの西洋楽器奏者が集まって演奏する合奏団体のことで、「管弦楽団」とも呼ばれます。まずは、その主な楽器と配置から紹介します。

オーケストラの楽器と一般的な配置



打楽器

ティンパニ、小太鼓、大太鼓、シンバル等：数々の楽器を使って曲のリズムや迫力を生み出します

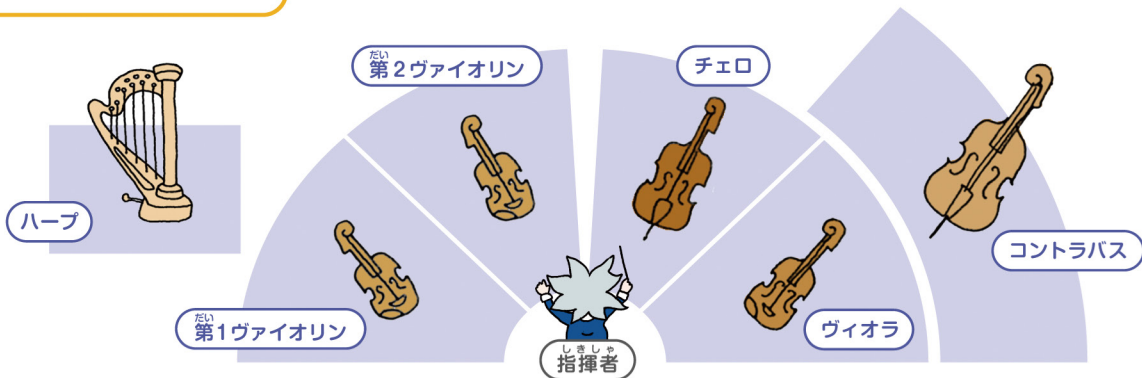


金管楽器

トランペット：はつらつとした強音、ファンファーレなど華やかな場面で活躍
ホルン：やわらかく丸みのある音色で、ほかの楽器と合わせるのも得意
トロンボーン：スライドが特徴。中低音ですが音域が広いのが魅力
チューバ：ザ・低音の主。大きさも迫力あり

木管楽器

フルート/ピッコロ：美しい音色でなめらかな演奏が得意、ソロやメロディを担当
オーボエ：温かい音色で、息が続くので長いメロディも一息で演奏できます
クラリネット：おだやかな音色、ソロでも活躍します
ファゴット：温かな音色で低音を支えます



弦楽器

ヴァイオリン：オーケストラの中心!花形。2つのパートに分かれています
ヴィオラ：弦楽器の音のバランスを担います
チェロ：豊かな響きで深みを出します
コントラバス：低い音で音楽に厚みをもたせています



何人で演奏しているの?

オーケストラの楽曲を演奏するためには、作曲家が選んだ楽器とその奏者の人数をそろえる必要があります。人数は作曲された時代や作曲家の指定によっても変わりますが、30人~120人くらい、とかなり幅があります。平均的な人数は80人程度で気持ちに合わせて演奏します。曲によって必要な人数が違うため、プロのオーケストラではコンサートの日、仕事に行かなくてもよい楽団員*がいるなんてことも!逆に大編成の時は全員出ても足りず、楽団外から応援を頼みます。

*楽団員...オーケストラの団員(メンバー)のこと

やくわり 役割について

コンサートマスター

コンサートが始まる直前、楽団員がステージの席についたころ、ヴァイオリンを持って拍手を受けながら遅れて出てくる人がいます。この方がコンサートマスター（通称：コンマス）です！オーケストラの演奏上の代表者で、ヴァイオリン奏者の最前列に座り、ヴァイオリンのソロがある場合はコンマスが弾きます。また、練習が始まる前には楽譜を研究して弓の動きを決めます。指揮者が作り上げたい音楽をいち早く察知し、各楽器のリーダーと合図を交わしながら、指揮者と一緒にオーケストラをまとめる重要な役割なのです。



チューニング

オーケストラのコンサートで楽団員が席に着くと、オーボエが「ラ」の音を出してチューニング（音合わせ）を始めます。オーボエが基準となる音を担当するのはなぜでしょうか？それは、熱や湿度などによる音の変化が少ない楽器だからだといわれています！

「縁の下の力持ち」な楽器は!?

ヴィオラ

ヴィオラはヴァイオリンより少し大きい楽器で、ハーモニーを生み出したり、リズムを刻んだりする役割が多い楽器です。ヴィオラの音がしっかりとまとまっていればオーケストラの音が豊かになります。そして、ヴィオラがいないとオーケストラの楽器の音色どうしがけんかをしてしまい、バランスのとれたきれいなハーモニーにはならない…とまでいわれています！



ファゴット

ファゴットは10本の指を全て使う珍しい管楽器で、木管楽器の中では一番低い音を出します。あたたかみのある低い音が特徴で広い音域をもっています。リズムやハーモニー、時にはメロディまで担当する、いろんな顔をもつ楽器です！



指揮者について

オーケストラでたった一人、音を出さない音楽家が指揮者です。指揮者には、大勢のオーケストラの楽団員に合図を出すだけでなく、いろいろな仕事や役割があります。楽団員も一人の音楽家。それぞれが自分の感じ方で演奏をしたら、音楽はそろいません。そこで重要なのが指揮者です。指揮者は、ひたすら楽譜を読み込み勉強をすることで楽譜をじゅうぶんに理解し、その背景にある作曲家の思いを読み取ります。自分なりの解釈を楽団員に伝え、理解してもらい、チームとしてまとめあげていく…指揮者にはそんな深い音楽性と信頼される人柄が求められるのです！同じ楽曲でも指揮者によって音楽が変わるなんてことも…ぜひ指揮者にも着目してみてください。



見てないのに見えてるって…?



オーケストラのなぞ？

文：飯尾洋一

Q. オーケストラのコンサートではマイクは使わないの？

A. オーケストラのコンサートでは基本的にマイクやスピーカーのような音響機器を使いません。お客さんは生の音をそのまま聴きます。ベートーヴェンやモーツァルトの時代には、マイクもスピーカーもまだ発明されていませんでした。スピーカーを通さない生の音は、ホールや会場に響いて最高にリッチでゴージャス！

Q. ひとりで複数の楽器を担当することもあるの？

A. よくあります！木管楽器のプレーヤーは演奏中に楽器を持ち替えることが珍しくありません。たとえばフルートをピッコロに持ち替えたり、オーボエをイングリッシュホルンに持ち替えるなど、「同属楽器」と呼ばれる同じ仲間の楽器を複数担当します。両方を吹けなきゃいけないなんて、大変だけどどちらも演奏できるなんてかっこいいですね！

Q. オーケストラの語源は？

A. オーケストラの語源は古代ギリシアまでさかのぼります。舞台と客席の間の場所のことを「オーケストラ」と呼んでいたのだとか。つまり、舞台より手前の場所を指していました。時を経て17世紀にオペラが誕生すると、この場所に楽器を演奏する人たちが座るようになりました。そして、初めは場所のことを指していた「オーケストラ」が、やがて合奏する人たちのことを指す言葉に変わったのです。

Q. ヴァイオリンの人数が多いのはどうして？

A. オーケストラのなかで圧倒的に人数が多いのがヴァイオリン。なんと、弦楽器の半数以上がヴァイオリンです。なぜこんなにヴァイオリンが多いのでしょうか。ひとつにはヴァイオリンはオーケストラの中心となる存在だから。第1ヴァイオリンが大事なメロディを弾くことが多いです。第2ヴァイオリンはそのメロディを支えるサポート役。ほかの弦楽器と違って、ヴァイオリンは2グループが必要なのです。もうひとつの理由は音量。一般に楽器は低音ほど大きな音を出しやすいのです。ヴァイオリンは弦楽器の最高音を担当するので、低音楽器に負けない音を出すためには人数が大勢必要です。たとえば最低音のコントラバスが6人なら、第1ヴァイオリンは14人、第2ヴァイオリン12人くらいがちょうどいいバランス。ヴァイオリンだけでサッカーチームが2チーム出来てしまうほど！

Q. 時代によってオーケストラは変化している？

A. 現代のような決まった編成のオーケストラが定着したのはだいたい18世紀中頃の頃のこと。そこから時代とともに、オーケストラは少しずつ編成を大きくしていきました。新しい楽器が発明されたり、作曲家が大編成の曲を書くようになりました。18世紀後半には30人くらいでも立派なオーケストラを組めましたが、19世紀後半になると100人以上を必要とする曲も書かれるようになりました。20世紀以降はむしろコンパクトなサイズが好まれています。サイズを大きくするよりも、いろんな種類の楽器や変わった編成を使って、新しい音色を作り出すことに作曲家たちの関心が移っているのです。

オーケストラクイズ？

レベル
1

オーケストラで使われる弦楽器はヴァイオリン、ヴィオラ、コントラバスとあと一つはなに？
①ウクレレ ②チェロ ③ギター ④三味線

レベル
2

オーケストラではあまり登場しない楽器は次のうちどれ？（ヒント：吹奏楽では大活躍！）
①サクソフォン ②ファゴット ③シンバル ④コントラバス

レベル
3

金管楽器の中で一番難しいと言われる、ギネスブックにも載ったことのある楽器は次のうちどれ？
①トロンボーン ②チューバ ③ホルン ④トランペット

レベル
4

打楽器の花形、ティンパニのペダルは何のためにある？
①音を伸ばす ②音程を変える ③音の大きさを変える ④音を止める



日本を代表するチェロ奏者、
宮田 大さんにインタビューしてみました！

ピンさんの
とつげき！
インタビュー



※3才の頃の宮田さん

ベンさん：いつから楽器をはじめたのですか？どうしてチェロ奏者になったのですか？

宮田さん：母がヴァイオリン、父がチェロの先生だったので、まず2才でヴァイオリンを始め、その後チェロを3才で始めました。青空の下で練習をしたり、テーブルの上に椅子を乗せてステージを作って弾いたりしていたので、練習している感覚はなく、いつの間にかチェロは相棒のような存在になっていました。実は、小6まではパイロットになりたいかったです。海洋生物学者になりたいとも思ったこともあります。中学はバレーボール部に所属していました。でも、人間の声に似ていると言われるチェロの音が好きで、毎日練習を続けていくうちに、自分の言葉や気持ちを音で表現できるこの楽器を演奏することを仕事にしたいと思いました。

ベンさん：オーケストラで演奏した時に良かったことや苦労したことを教えてください！

宮田さん：隣の演奏家と、指揮者の方と、客席のお客様と、みんなで音楽を作っているという喜びがあります。一方で、自分だけの音楽になりすぎずに、いかに周りとの合わせられるかが難しいです。ちなみに、オーケストラの曲では、作曲家が一番伝えたい感情をチェロで表現することが多いんですよ。これはチェロをやっているとよかったと思う瞬間です！

ベンさん：練習や本番がお休みの日は何をして過ごしているのですか？

宮田さん：芸術作品を見たり、スキューバダイビングも趣味なので海に潜ったりしています。また、普段から「キンモクセイの香りがするな」などちょっとした変化を感じ取るようにしています。1つ1つの経験や感じたことは演奏するときに生かされていると思います。

ベンさん：子どもたちに向けて一言お願いします！

宮田さん：私は好きなチェロを弾くのを諦めずに頑張ったことで今も続けることができています。みなさんも、友達と話すのが好き、何かを作るのが好き…など、今「好きだな」と思うことを、どんどん追求してそれをもっと好きになってください！きっと将来の自分に繋がっていきますよ！



オーケストラの間違いを探し出せ！

ベンさんが指揮をするオーケストラですが、あれれ？何だかおかしいところがありますよね？さあ、君はいくつ間違いを見つけられるかな？

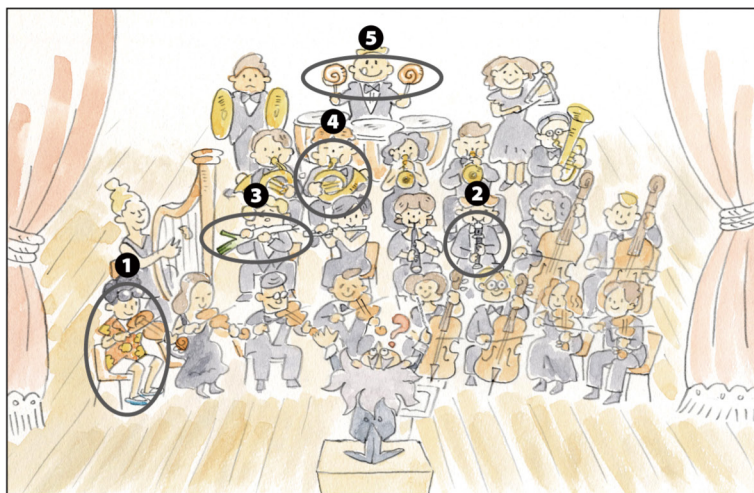


答えは右ページ→

こうえんちゆう

公演中にアクシデントがあったら…

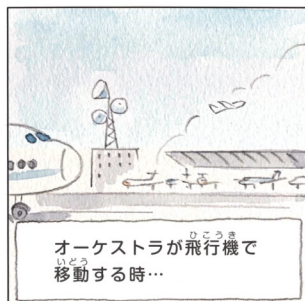




- 「オーケストラの間違いを探し出せ!」の答え
- ① 左端ヴァイオリン奏者の服装が1人だけ違う
 - ② オーボエ奏者(右)がリコーダーを吹いている
 - ③ フルート奏者のフルートがネギ
 - ④ ホルン奏者(右)のホルンの向きが逆
 - ⑤ ティンパニ奏者のマレットがキャンディー

- 「オーケストラクイズ」の答え
- レベル1: ② チェロ
 - レベル2: ① サクソフォン
 - レベル3: ③ ホルン
 - レベル4: ② 音程を変える

飛行機の移動は一人分?



オーケストラの楽器や仕組みについて分かったかな?そして、今回登場した楽器がどんな音がするのか気になった人はぜひ YouTube チャンネル「こどものためのクラシック」で楽器の音色を聴いてみてくださいね!そして、オーケストラの醍醐味はやはり生のコンサート!コンサートホールでみんなを待っています!



ぜひチェックしてね!



「子ども音楽新聞」バックナンバーはこちら!

ソニー音楽財団 検索

※ Facebook「こどものためのクラシックコンサート」もぜひご覧ください。



Music Festival for Children and Young People

こどもを対象とした世界最大級のクラシック音楽の祭典

子ども音楽フェスティバル

こども音楽フェスティバル

5月ゴールデンウィークに、サントリーホール(東京都港区) およびアーク・カラヤン広場等 周辺施設で開催!

クラシック音楽を一日中余すところなく楽しめる世界でも類を見ない規模のイベントです。全国のみなさまに楽しんでもらえるよう、コンサートのライブ配信中継も予定しています。ご期待ください!

<https://www.kofes.jp/>

